

科目責任者 山田 俊二 (健康運動科学研究室)

## ■ 教育目的

医療人の教養ともいえる心肺蘇生法を修得するとともに、高齢者や障がい者の模擬体験を通して、他者の生活上のご苦労や努力を洞察し、理解できる知性を育成することが第一の目的である。そして、身体的のみならず社会的、精神的な側面からも健康でいられるように、レクリエーションなスポーツ活動の実践体験を通して、生涯に亘り健康的で安全な日常生活を習慣的に営む態度形成に資することが第二の目的である。【卒業認定・学位授与の方針：YD-②、SD-④】

## ■ 学習到達目標

1. 心肺蘇生法を修得し、心肺蘇生が必要となる場面に遭遇したときに、役割に応じて適切に行動できる。
2. 高齢者・障がい者の模擬体験を通して、他者へのいたわりと具体的な配慮ができる精神を養成する。
3. 生活習慣病や軽度認知障害 (MCI) の予防と改善にエビデンスのある身体活動の実践を通して、日常生活を身体的・社会的・精神的に健康的なものにする態度や習慣を獲得する。

## ■ 準備学習 (予習・復習)

高齢者模擬体験と心肺蘇生法 (CPR) では、本学マイキャスト上に、授業用プリントやフォローアップ・トピック等を掲載することもあるので、授業前のチェックを推奨する。

## ■ 授業内容

No.	項目	授業内容	SBO コード
1	(3 限)	オリエンテーション	
//	(4 限)	講義 (AED 使用法、心肺蘇生法 (CPR)、高齢者の円背原因や前兆など)	
2	(3 限)	クラスを全 10 班に分け、高齢者模擬体験と健康ウォーキングは各 2 班が、卓球とバドミントンは各 3 班が実施する。	A (1)-①-1 A (1)-①-5 A (1)-②-1
//	(4 限)	班毎に実施種目をローテーションし、上記と同様に実施する。 ※ローテーション表はオリエンテーション時に配布、説明する。	同上
3	(3 限)	同上	同上
//	(4 限)	同上	同上
4	(3 限)	同上、高齢者最終回、ウォーキングは希望者	同上
//	(4 限)	同上	同上
5	(3 限)	2・3 班が CPR、卓球とバドミントンは各 3・4 班が行う、ウォーキングは希望者	同上
//	(4 限)	同上、ローテーションで実施	同上
6	(3 限)	同上、ローテーション	同上
//	(4 限)	同上、CPR 最終回	同上
7	(3 限)	同上 (兼 CPR 補追演習枠)	同上
//	(4 限)	同上、種目毎に「終了式」	同上

## ■ 授業分担者

A 組 (金曜日) 山田俊二、木下茂昭 (非常勤講師)、高階曜衣 (非常勤講師)、遠藤祐輝 (非常勤講師)

B 組 (火曜日) 山田俊二、布施沙由理 (非常勤講師)、水野はるな (非常勤講師)、清宮孝文 (非常勤講師)

C 組 (木曜日) 山田俊二、目黒拓也 (非常勤講師)、上杉 杏 (非常勤講師)、小林哲郎 (非常勤講師)

## ■ 課題 (レポート、試験等) のフィードバック及び成績評価方法

学習態度 (70 %) および課題レポート 2 件 (30 %) で総合評価を行う。ただし、レポートは高齢者模擬体験、心肺蘇生訓練に参加していなければ提出することはできない。また、レポート未提出者は評価の対象外となる。

## ■ その他

・ 出席が学則の定める条件 (実習に準じる) を満たさない学生は失格となる。なお、2 年次にこの演習を再履修する時間枠が無いことに留意されたい。